広告　企画・制作／毎日新聞社営業総本部

きょうは
みどりの日

未来とつながる公園時間

公園から広がる社会のカタチ

世界中で大切さが見直された「おうち時間」。一方で健康維持には、公園でみどりに触れ、体を動かす時間も欠かせません。そんな「公園時間」の今とこれからについて、東京都の公園づくりに携わった経験を持つ千葉大学大学院の竹内智子さんと、団地再生や幼稚園、斬新な店舗など、公共空間づくりでも活躍するクリエイティブディレクターの佐藤可士和さんが対談しました。

※対談中はマスク着用など感染症対策を行って実施しました。

千葉大学大学院・園芸学研究院 准教授
竹内 智子さん

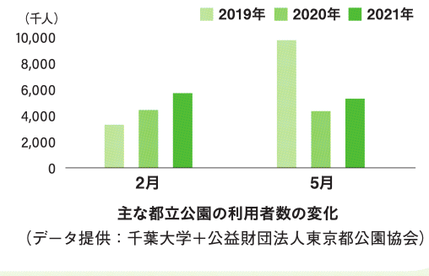
たけうち・ともこ／東京都出身。大学院修了後、東京都庁に造園職として勤務し、都市緑地計画、景観計画、再開発プロジェクトなどに携わる。2020年7月より現職。専門は、都市緑地政策、官民連携、植栽管理、公園や庭園の再生整備など。

クリエイティブディレクター
佐藤 可士和さん

さとう・かしわ／東京都出身。2000年、クリエイティブスタジオ「SAMURAI」設立。ブランド戦略のトータルプロデューサーとして、企業のブランディングから幼稚園、病院、地場産業など幅広い領域で活躍。日本空間デザイン賞金賞など受賞多数。京都大学大学院特命教授。

変化している「公園時間」の過ごし方

日比谷公園や代々木公園、石神井公園など、36の主な都立公園の利用者数は、コロナ禍前の2019年より、冬（2月）の利用が年々増えています。春（5月）は大規模なイベントや外出の抑制から、コロナ禍前より減っていますが、年間を通じて日常的な公園時間を楽しむ人が増えていることがうかがえます（下図）。特に自然の多い丘陵地の公園や、住宅地の公園で年間を通じて公園利用者が増えています。



主な都立公園の利用者数の変化
（データ提供：千葉大学＋公益財団法人東京都公園協会）

ベースとなった公園の記憶

佐藤　子どもの頃は毎日のように実家近くの石神井公園（練馬区）に出掛け、ザリガニや昆虫を捕まえたり秘密基地を作ったりとさまざまな遊びをしました。その頃の楽しい記憶が自分のベースになっているので、パブリックスペースや屋外空間のデザインはとても興味をかき立てられます。

竹内　手掛けられたUNIQLO PARK（右下）は、建物の屋根に傾斜を活かしたさまざまな遊具があって、いるだけで楽しくなる、遊びたくなる空間になっていますね。

佐藤　ファミリー向けの店舗を建築からつくるプロジェクトでした。建築家の藤本壮介さんとディスカッションしながら、屋根全体、建築全体が公園になっている、地域に開かれた店舗空間というコンセプトが生まれました。

竹内　行政で公園管理に携わってきた一人として、既存の公園の多くは、もっと地域の方々に楽しんでいただけるのではないかと感じてきました。その意味で、佐藤さんのお仕事は刺激的です。

佐藤　最近は、自由に遊べる公園が少なくなったと聞きますね。

竹内　けがの心配や騒音問題など、時代に合わせた配慮が求められ、さらに管理側の人員面など複数の理由があります。例えば普段から地域の方が公園づくりに参加するなどして、子どもたちや地域の方々とつながりをつくっていけば、相互理解が深まると思うのですが。

佐藤　既存団地の再活性計画だった団地の未来プロジェクト（横浜市）では、そのあたりをすごく考えました。僕がファシリテーター役となり、団地に住む方、周辺地域の方、有識者などさまざまな立場の方がオープンに意見を出し合って理解を深めていったんです。形になるまで約10年かかりましたが、とてもやりがいのある仕事です。

竹内　その場所が持っている活かしきれなかった良さを、佐藤さんがクリエイター目線で引き出されたのだと思います。公園にも、まだ引き出されていない魅力がありそうです。

日常とつながる公園

竹内　コロナ禍では、公園で散歩する人が増え、勉強や仕事をする姿も見かけるようになりました。私自身も、晴れた日にはみどりを感じながら働きたいですね。日常生活が屋外に広がっていく、そんな時代だからこそ、公園の価値をきちんと考えたいと思っています。

佐藤　オフィスのデザインをするときは心地よく働いてほしい、病院はよりやさしさを感じる場所にしたいと取り組んできました。屋外空間を気持ちよく使えるとすごくいいですね。

竹内　山があれば登りたくなる、芝があれば転がりたくなるというように、公園には五感で楽しめる環境があって、心も体もリフレッシュできます。これからは、地元の若い人が公園に出店しやすくするなど、地域を活かす場となれば、公園が街を元気にすることにもなるでしょう。

佐藤　UNIQLO PARKもお店と公園を地続きにして、柵のない社会を目指しているつもりです。もちろん多目的な空間もあれば、スケートボードなどを思う存分できる特化したコンテンツもあっていい。ふじようちえん（東京都立川市）は、園舎そのものが遊具になるというコンセプトでつくりましたが、子どもは段差ひとつで楽しく遊べますよね。

竹内　住宅地などの小さな公園は、ブランコと滑り台と砂場があり、どこも似通っていました。そこで最近は、子ども向けの遊具、コミュニティ花壇など、地域に応じた多種多様な「公園時間」を届けてはと自治体に提案しています。

これからは「意味」の時代

佐藤　SDGsにみられるように社会貢献の意識がいっそう広がって、とりわけZ世代の若者たちは敏感です。一昔前「モノからコト」と言われましたが、今は「コトから意味の時代。水一本買うのでも、少しでも地球や社会に貢献しているという、意味を感じられるものが選ばれます。公園づくりも、自ら参加し、地域とつながれるとなればもっと関心を持つ人が増えるのではないでしょうか。

竹内　地域の方がもっと公園を身近に感じ、主体的に楽しんでいただけるためには、何がポイントでしょうか。

佐藤　プロデューサーの視点を持つ人が垣根を越えて、みんなの「やりたい」というエネルギーをうまくまとめていくのが大切です。公園には大きなポテンシャルがあります。活用することで地域の生活が変わるので、行政も民間も一緒になって、これからの人や社会にとって公園とは何かを考えていけるといいですね。

竹内　一人ひとりがより自分らしい時間を過ごせる新しい公園を増やしていきたいですね。また心地よい季節ですから、読者の皆さまもぜひ「公園時間」を楽しんでほしいと思います。きっと癒やしや発見の場になります。

UNIQLO PARK 横浜ベイサイド店
神奈川県横浜市金沢区

屋上を誰もが楽しめる公園に

佐藤さんがトータルプロデューサーとして建築計画から参加。スロープ状の店舗屋上が、すべり台やジャングルジム、ボルダリングやクライミング設備など多彩な遊具を備えた公園になっています。公園から店舗内の各フロアに行き来できるなど、立体的で広がりのある空間が多くの人に好評です。

令和3年度 第37回
「都市公園等コンクール」
国土交通大臣賞 受賞作品・団体紹介

都市公園等コンクールは、都市公園等の設計、施工、材料・工法・施設、管理運営について特に優秀なものを表彰し、広く紹介するコンクールです。

日本公園緑地協会のホームページでは国土交通大臣賞をはじめすべての賞の受賞作品・受賞団体を紹介しています。

https://www.posa.or.jp/

設計部門

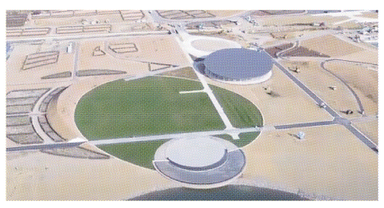
高田松原津波復興祈念公園
高田松原津波復興祈念公園（岩手県陸前高田市）

受賞団体　● 株式会社プレック研究所

施工部門

石巻南浜津波復興祈念公園 施設整備工事
石巻南浜津波復興祈念公園（宮城県石巻市）

受賞団体　● 株式会社富士グリーンテック



管理運営部門

地域と共にコロナ禍に挑む多摩部の公園
多摩部の公園グループ
（陵南公園、小宮公園、滝山公園、大戸緑地）
（東京都八王子市、町田市）

受賞団体
● 西武・多摩部の公園パートナーズ
（西武造園株式会社、西武緑化管理株式会社、特定非営利活動法人NPO birth、一般社団法人防災教育普及協会）

特定テーマ部門（民間活力導入事業等の取組み）

Hisaya-odori Park
久屋大通公園（愛知県名古屋市）

受賞団体
● 三井不動産株式会社
● 株式会社日建設計
● 大成建設株式会社
● 岩間造園株式会社

全国都市公園整備促進協議会

一般社団法人 日本公園緑地協会